

江戸・明治・大正

時代区分	沿革	政治・社会	経済・その他
江戸期	<p>黒田孝高入部により城下町として産声をあげた中津は、その後細川、小笠原、奥平と領主が変わったものの、豊前国一帯の政治、経済の中心地とした発展をした。</p> <p>城下には、武士のほかに商人と職人が集まり、中津平野の米作を中心とした各種物品の集散地として、城下商業が隆盛した。</p>	<p>1587 黒田孝高入部</p> <p>1717 奥平昌成入部 豊前三郡の領主</p> <p>1721 領内98,624人 中津城下町 5,166人</p>	
明治・大正期	<p>維新後、士族授産からおこった製糸・紡績工場の立地を機に、背後の段丘地帯を中心に桑栽培と養蚕業が発達し、中津における繊維工業の興隆の足場が築かれた。</p> <p>その後、鉄道の開通を契機に近代的繊維工業が次々に立地し、一方、商業もますます発達する中で、ここに商工業都市としての中津が開花した。</p> <p>明治21年町制をしいた頃の中津は、人口の集積が著しく、大分、小倉と同水準の都市であった。</p> <p>大正末期の豊田、大江両村の合併により、中津町は三大繊維工業や多くの中小企業を擁する県北の中心都市としての地位を築いた。</p>	<p>1871 廃藩置県により (明4) 中津県から 小倉県に編入</p> <p>1876 府県統合により (明9) 大分県に編入</p> <p>1888 市町村制施行に (明21) より中津町成立 (人口15,272人)</p> <p>1925 豊田、大江両村 (大14) 合併</p>	<p>1878 銀行、汽船会社、 (明11) 蚕業工場の設立</p> <p>1879 末広会社 (明12) (大分県初の生糸工場) 設立</p> <p>1895 鉄道豊州線 (明28) 小倉 - 行橋間が開通</p> <p>1896 末広会社、豊中製糸合併 (明29) 中津紡績設立</p> <p>1897 鉄道豊州線 (明30) 行橋 - 長洲間が開通</p> <p>1911 豊州線改め、国鉄日豊線が (明44) 柳ヶ浦 - 大分間で開通</p> <p>1912 耶馬溪鉄道が設立 (明45) (大正13年までに中津 - 守実まで開通)</p> <p>1918 富士瓦斯紡績が設立 (大7)</p>